

平成30年度第1回政策会議

日時 平成30年11月21日（水）14:00～14:30

会場 市長会議室

参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長 辻教育長
小林企画部長 小野総務部長 小林財務部長

旅客ターミナルの整備について

◎対応 岡村港湾空港部長 芝井港湾空港部次長 藤森港湾課長

◆ 議題の趣旨 ◆

旅客ターミナルの整備について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

本件の内容は了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■ 藤森港湾課長

函館港を訪れるクルーズ船は、全国的なクルーズ需要の増加に伴い寄港数が増加しており、来年度、過去最高の50隻を超え、約10万人の乗客乗員が本市を訪れる見込みとなっている。このような状況のもと、平成28年度から若松地区において、函館開発建設部により12万総トン級のクルーズ船が利用可能な岸壁整備が鋭意進められている。

全国的なクルーズ需要の拡大に伴い、クルーズ船の寄港による地域振興や経済の活性化が期待され、各港湾においては、受入環境整備が急速に進められている状況にある。しかし、これまで函館港では、貨物船用の岸壁を使用していることから、旅客ターミナルが整備されておらず、旅客が待合等の際に風雨にさらされるなど快適性が損なわれていること、C I Q（税関、出入国管理、検疫）の手続きが船内の通路やホールで行なわれており、検査機材の設置に時間がかかるなど業務に支障をきたしていること、さらに、同手続きに時間を要していることから、旅客の観光時間が短くなり地域における消費活動が十分に行われていないことなどが課題となっている。

このような受入環境の改善を目的として、天候に左右されない待合場所の確保とC I Q手続きの迅速化に必要な旅客ターミナルをクルーズ船用岸壁のある若松ふ頭に整備する。また、旅客が安全かつスムーズに観光地へ移動するための歩道、ツアーバスやタクシーの車両待機場や円滑な誘導を図るための案内標識等の周辺整備を行う。

旅客ターミナルが整備されることで、これまで船内で行っていたC I Q手続きが短時間で円滑に行われ、旅客の利便性や快適性の向上が図られるとともに、滞在時間が長くなることで観光や食事、ショッピングなどの活動範囲が広がり地域の経済

効果が拡大すると考えている。

旅客ターミナルの配置については、旅客の利便性を考慮するとともに、バス等の車両動線や函館市青函連絡船記念館摩周丸への通行に配慮した位置とした。

施設規模については、他港の事例を参考とし、また、若松ふ頭最大の対象クルーズ船である12万総トン級のダイヤモンド・プリンセスが係留した場合を想定し概要を検討した。

施設に必要な機能としては、C I Q手続きのためのカウンターのほか、トイレや事務室、倉庫、インフォメーションデスクなど、規模については、1階建てで、概ね1,200㎡とし、詳細については、基本設計で検討を行う。

総事業費としておよそ14億円を見込んでおり、2022年度の完成をめざす。

■工藤市長

旅客ターミナルへのバスの出入りは大丈夫か。交差等に問題はないか。

■岡村港湾空港部長

問題ないと考えている。

■工藤市長

下船後、岸壁から旅客ターミナルまでの旅客の動線はどうなっているのか。

■岡村港湾空港部長

旅客は、クルーズ船下船後、岸壁を通過して旅客ターミナルまで移動するが、一部、屋根付き通路の設置を想定しており、雨天時などの利便性を向上させたいと考えている。

■小林企画部長

他に意見がないようなので、本件については了承とさせていただく。